

# もも・ネクタリン特報

# ①

令和4年3月  
JA中野市営農センター  
JA中野市りんご・もも部会

本年の生育は、概ね例年並みとなる予想です。ただし、今後の気象によっては進む場合も想定されるため、園地内をよく確認して薬剤散布の準備を早めに行ってください。また、凍霜害により結実が心配される川中島白桃等では、必ず人工授粉を徹底してください。第1回目の防除に向けて、剪定作業・SS走行路の確保・SSの試運転等を進めてください。

次ページには凍害対策、苗木の植え付け、摘蕾など記載

(参考：過去4カ年の発芽日、平岡地区)

白鳳	平年	R4(予想)	R3	R2	R1	H30
発芽日	4/2	3/30頃	3/25	3/22	3/31	3/29



## 【休眠期(発芽前)の散布】\*もも・ネクタリン共通

◎昨年、縮葉病が発生した園地や、カイガラムシ類の発生密度が高い園地は、休眠期の防除を徹底しましょう。特に、縮葉病は薬剤のかかりにくい部分(樹の上部や先端)に多く発生が見られます。薬剤散布時は、樹全体に薬液がかかるよう、丁寧に散布しましょう。

◎キンセット水和剤80体系と石灰硫黄合剤体系の2体系を記載しています。

下記の内容をよく読み、いずれかを選択して散布を実施下さい。

①キンセット水和剤80 体系		散布日	月	日
散布時期：発芽前(3月下旬)		散布量		ℓ
散布薬剤	水	9	8	ℓ当り
	スプレーオイル	2		ℓ
	アプロードフロアブル	1	0	0ml
	キンセット水和剤80	1	0	0g
対象病害虫：縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類				
散布量：10アール当り 300ℓ				
混用順：水 ⇒ スプレーオイル ⇒ アプロードフロアブル ⇒ キンセット水和剤80				
【注意事項】(農薬使用基準)				
①アプロードフロアブル：もも⇒(14日前、3回) ネクタリン⇒(7日前、2回)				
②キンセット水和剤80：もも⇒開花直前まで(但し収穫60日前、5回) ：ネクタリン⇒(開花直前、5回)				

②石灰硫黄合剤 体系		散布日	月	日
散布時期：発芽前(3月下旬)		散布量		ℓ
散布薬剤	水	9	0	ℓ当り
	展着剤	1	0	ml
	石灰硫黄合剤	1	0	ℓ
対象病害虫：縮葉病・カイガラムシ類・ハダニ類				
散布量：10アール当り 300ℓ				
混用順：水 ⇒ 展着剤 ⇒ 石灰硫黄合剤				
【注意事項】				
① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイルの50倍を加用する。(アプロードフロアブルは混用不可)				
② 石灰硫黄合剤は、隣接するハウスビニールにかからないよう注意する。				

## 【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

- ① カイガラムシ類の多発園は、被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を実施する。(または、被害枝を切除する)
- ② せん孔細菌病発生園は、開花7日前にキンセット水和剤80の1,000倍を特別散布する。  
\*枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ③ コスカシバの発生園では被害部の樹脂を取り除き、フェニックスフロアブルの500倍(開花期まで、1回)を樹幹部に散布、または、ガットサイドS1.5倍液(もも30日前、1回。ネクタリン使用不可)を樹幹部に塗布する。

## 【お知らせ】

今回の訪問日にて、栽培日誌を配布いたします。本年も完全記帳および提出をお願い致します。

次回特報発行予定：4月文書配布 内容：開花前の薬剤散布

## 果樹類の雪害に対する技術対策について（県からの情報提供）

### (1) 主枝等の枝折れの処理

- 骨格枝等が折れている場合（図1）は、せん定時に枝元で切り、塗布剤を処理する。切断した付近に主枝候補枝を求めたい場合は、切り口周辺から発生する徒長枝を大事に育てる。
- 枝の基部から裂けるなどして修復不可能な場合は、癒合促進のため傷口をできるだけ滑らかにし、塗布剤を処理する。

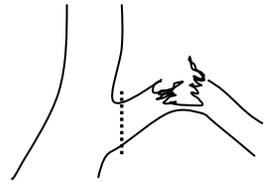


図1 折れた太枝の処理

### (2) 幼木の主幹が折れた場合

- 幼木が穂品種と台木部の継ぎ目で折れたものは、苗木を更新する。
- 穂品種が折れた場合、仕立て直しが可能な若木は、切り口に塗布剤を処理し、生育期に伸長した新梢を利用して再育成する（図2）。
- 生長の見通しが見えないものは、苗木を更新する。

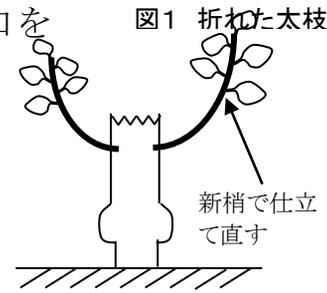


図2 穂木の部分から折れた場合

### (3) 骨格枝等を修復する

#### りんご等の立ち木果樹類

- 倒伏した樹は、土壤水分が十分な状態を確認してから徐々に起こし、支柱で補強する。
- 裂けた骨格枝等で修復可能なもの（裂けた長さが50~80cm程度で、縦方向の通導組織の破断が少なく、1/3程度の樹皮が残っている等）は、枝をチェーンブロックや支柱で持ち上げ、ボルト、かすがい、縄などで固定する（図3、4）。また、乾燥防止、病害防止のため、傷口は接合後に塗布剤で覆う。

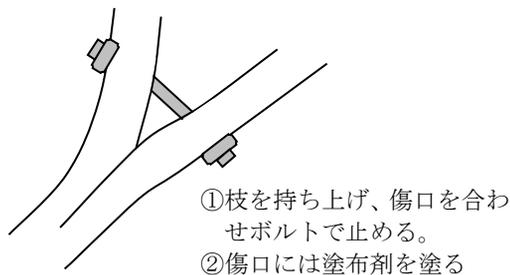


図3 枝が2つに裂けた場合

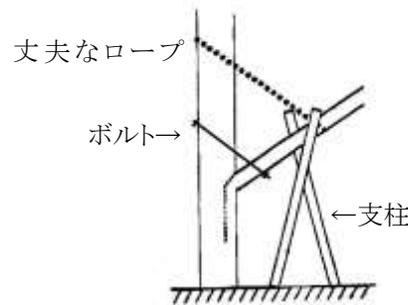


図4 裂けた主枝の接合例

- 枝裂けが激しく生育の見込みが立たない枝は、癒合促進のためチェーンソーなどで滑らかに削り、塗布剤を塗る。特に、モモやプラム等の核果類は、折れた骨格枝は弱る場合があり利用できないことが多いので、避けた状況をよく見極め対応する。

## 【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と3~4月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。また、園内環境（排水性・風当たり等）によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発園地では、以下の事項にご注意ください。

### ①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。（4月下旬頃に除去する）

\*薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるが、特に凍害発生が心配される園地では、稲わら等の除去を遅らせる。

### ②排水性の悪い園地では、暗きよや明きよ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えとする。

### ③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等の導入を検討する。

## 【摘蕾】：昨年凍霜害の被害にあった園地では、生産量確保に向けて摘蕾を控えるか軽くする。

時期：3月下旬~4月上中旬（蕾の先端がピンク色になるまでふくらんだ頃が効率良い）

遅れた場合は落花期までに花摘みを行なう。

### ◎摘蕾の方法

- 主枝・垂主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。
- 真上、真下の蕾を除く。斜め、横向きは残す。
- 結果枝の長さによる、摘蕾方法は右図を参照。

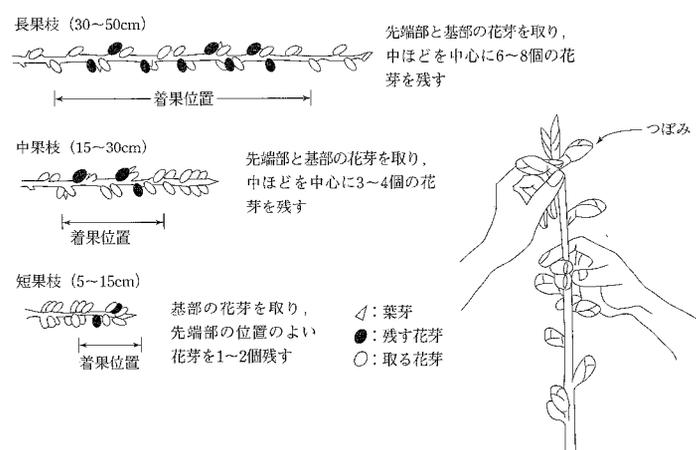


図1-10 摘蕾の方法